

# 望ましい行動の強化を目指した指導の工夫

特別支援教育班

黒澤 基典（中学校教諭）

湯本 久美子（中学校教諭）

星 裕貴（特別支援学校教諭）

## 【研究の概要】

児童生徒の特異な行動の心理的な要因を、ABC分析を活用して探り、それを基にPDCAサイクルで望ましい行動を強化していくことで特異な行動を減少させる研究に取り組みました。

### 【ABC分析について】

行動を、先行刺激「A」（いつ、どこで、どんなとき、だれに）→行動「B」→後続刺激「C」（行動の後、周囲がどう反応し、何が得られたか）に分けて捉え、行動の前後の様子から、その行動の要因を推定し、対応を考える分析の方法。

## 【例を基に研究の説明をします】

突然、声を出す子どもがいるの。なぜ、このような行動をとるのかしら？



### ABC分析による理解

それはね、伝えたいことを望ましい方法で伝えられず、これまで獲得しているコミュニケーションの方法として訴えているのですね。コミュニケーションの方法を改善する必要があります。

だから、**特異な行動の要因**を特定して、**望ましい方法で伝えられるように支援**してあげることです。このような**行動の主な要因**は次の①～④が考えられます。

- ①注目を得るため
- ②要求の方法として
- ③逃避したい
- ④感覚刺激として楽しむ



A：先行刺激【きっかけ】	B：行動	C：後続刺激【何が得られたか】
・先生が問題を出して指名する	・突然、声を出す	・周囲が騒ぐことで、質問に答えることから逃避できる

これは、先生から指名されて質問を受けたものの、どう答えてよいか分からず、「突然、声を出す」ことで周囲が騒ぎ、答えなくてすむことになったと考えられます。この子どもにとって、授業の内容又は質問の内容や伝え方が分からないことに原因があり、その場から逃れたい気持ちを「突然、声を出す」という特異な行動で訴えていたと考えられます。適切な対応をしていかないと、「突然、声を出す」ことを学習し、この行動は強化され、増えることが予想されます。

### ABC分析による仮説

「突然、声を出して逃避したい」という行動が起こったら、周囲は騒がず、声を出した子どもが落ち着くのを待ちます。そして、質問に対しては「分かりません」と適切な言葉やサインによるコミュニケーションで答えるように支援します。また、このような行動を未然に防ぐために、質問からなぜ、逃れたいのかを児童生徒の実態や環境要因などから探ります。

仮に、教師の質問が話だけではよく分からないために声を出した場合は、事前に質問事項をメモや付箋に書いて渡し、注意を向けてから質問事項を説明するなどの支援を試みます。質問の正しい答えをメモに書いていたら、それを読んで答えるよう支援します。

## 【成果と課題】

例のようにしてABC分析により、特異な行動の心理的要因を探り、仮説を立てました。そして、それに基づいて実践を行い、特異な行動と望ましい行動の頻度を数値化して仮説や支援方法について検討することを繰り返しました。これにより、仮説や支援方針の妥当性が明らかになると同時に、望ましい行動が増加していくと特異な行動が減少していきました。

今後は、望ましい行動をさらに強化するために、児童生徒への支援について教師間で共通理解を一層図り、保護者と連携を進めていきたいと考えています。

